

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177200078		
法人名	環境開発株式会社		
事業所名	グループホームのぞみの家 カエデ館		
所在地	赤平市宮下町3丁目1番地		
自己評価作成日	平成29年11月6日	評価結果市町村受理日	平成 30年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0177200078-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号		
訪問調査日	平成29年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 看護師を配置し、利用者様の状態により指示を仰いで介護又は受診すると共に、医療機関との連携を密に取っている。
2. 夏祭りや敬老会、クリスマス会などの行事には御家族様にも出席を募り、一緒に参加して頂いている。
3. 季節行事とし花見、焼き肉、紅葉観覧、日帰り旅行、一泊旅行など計画し行っている。
4. 同敷地内には、グループホーム2号館・3号館、デイサービス本館・2号館があり、合同行事などで交流を図っている。また、畑を作り利用者様、職員で育て収穫の時期には収穫際を行っている。
5. 退居後も敬老会の記念品を届けるなどして、関わりを持っている。
6. 毎月御家族様には写真付きの手紙を送り、日々の様子がわかりやすいよう工夫している。
7. 入院中の利用者様の洗濯支援をし、退居した場合でも必要に応じて継続して行っている。
8. 室内は広い空間と和室、暖炉形式のストーブを設置し癒しの場を提供できるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR赤平駅より徒歩10分と近く、道道691号赤平歌志内線に面して立地し交通の便に恵まれている。母体法人は赤平、旭川、札幌と3地域で高齢者福祉事業所を運営し事例を共有しながら質の向上に努めている。広い敷地にはグループホーム3棟、デイサービス2棟と約50M間隔で建っている。3事業所合同で事業所行事の焼肉、避難訓練、運営推進会議、お寺さんの法話などを行って相乗効果を上げている。季節行事を始めドライブや外食など多くの外出機会を設け日々の生活に変化をもたせている。利用者家族に3ヶ月毎に各地域の事業所情報を6ページに編集した広報誌や運営推進会議の議事録を郵送し、家族の来訪時のコミュニケーションに役立っている。商工会や町内会から運営推進会議参加や避難訓練時の誘導役など積極的に協力を得ている。職員は体験学習参加者や介護経験者が多く、市内や近隣市町村より通勤しており明るく生き生きとケアに努め、丁寧なサービスは利用者家族からの信頼を得ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の尊厳を大切にし、御家族様や地域の方々が訪問しやすいホーム作りを念頭に置き7つの項目をフロアーに貼り常に意識し日々の実践に繋がっている。	採用時研修と随時行う内部研修で説明し、毎朝のミーティング時に全員で復唱し、理念にある「家族のような介護に近づいているか」の実践について共有するよう努めている。	スタッフ全員で話し合い、地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の事業所理念を新たに作ることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内のイベントへの参加、近隣小学校の運動会や学習発表会の観覧などで交流を大切にしている。	商工会に加入し、地域のイベントに参加するなど商工会、町内会と交流が強く非難訓練の参加や避難施設使用の提案を受けている。近隣の高校から体験学習の受け入れを継続し、小学生の当事業所清掃や高校生の除雪作業などボランティアが来訪し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議や商興会の集まりに参加し認知症の理解を深められるよう努力している。また運営推進会議の中で「のぞみの家本館」の活動報告をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会、地域包括センター、他施設の職員の方に参加して頂き意見などを聞いてサービス向上に活かしている。今年は火災避難訓練、地震避難訓練にも参加して頂き協力してもらっている。	3館合同で年6回開催し、家族、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などが出席し、事業報告、行事予定、避難訓練報告(講評)、家族からの要望、次回開催テーマなど多くの協議を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と認定調査の件で日頃から連絡を密に取り必要に応じて相談などもさせて頂き、協力関係を築いている。	介護認定の変更、更新などの手続き、事業所の状況を報告して、指導、助言、情報を得て協力関係を築いている。地域包括支援センター主催の「地域ケア会議」に出席し、研修内容をスタッフ会議で発表して全員で共有するよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯の為夜間のみとし日中は自由に出入り出来るようにしている。また、職員それぞれが身体拘束について考え、チームの中で意識付けをし拘束のないケアを実践している。	職員は外部、内部研修会で「身体拘束排除マニュアル」などを使用して身体拘束の弊害を理解している。ベッドには危険防止のため家族の同意を得て手摺りを使用している。行動抑制の不適切な言葉はミーティング時や、その都度職員同士で注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議やミーティング・研修の中で虐待について学んでおり入浴や更衣等には全身観察し状況の把握に努めている。言葉の虐待にも注意し気がついた事があれば職員同士注意し合ったり意見交換をしている。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングや会議などで学習し資料など回覧し知識を習得する機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前の見学を含め話し合いの場を設け、不安や疑問等は除けるようにしている。また契約の際は今後の方向性についての相談などもしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には近況報告したり利用者様の要望を御家族様に伝えコミュニケーションを図るようにしている。また、毎月のお便りで意見や要望を返送して頂いている。	日常の会話などから利用者の意見、要望を把握し、申し送り帳に記録し、朝夕のミーティングで発表し職員間で共有している。家族とは面会時に近況を報告したり、毎月意見や要望を聞いて会議を行い対応、結果は利用者家族の来訪時、電話、お便りなどで報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや会議などで意見を出し合う機会を設け提案を聞き、反映させ働きやすい環境作りに努めている。	ミーティング、会議を通じて意見や提案を聞いて運営に反映させている。回数を決めず個別面談を行い内容により上司に伝わるシステムを構築している。具体例として、職員が行う買物は食材を優先し、日用品は業者に発注・納品とすることで職員の負担軽減に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実践努力により職員への登用があり資格取得者には、手当が支給されるなど各自の向上心が上がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や内部研修を行っている。必要に応じ実践指導し技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は懇親会などで意見交換しサービス向上に繋げている。また、他施設との交流の場も設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に自宅または病院、事業所等に伺い身体状況や、心身の状態などを把握している。可能な方には見学にきて頂くなどし、困っていること、不安な事、要望等を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みがあった時点で、困っていることや不安な事を聞き、相談に乗っている。また、希望や要望に耳を傾け、良いサービス提供ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問や調査等で得た情報で困り事、不安についてはできるだけ希望に添うようにしている。必要に応じて他のサービス機関や担当医師に相談など連絡調整している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はそれぞれの意識とし共同生活する事を主とし、生活の中でさりげないケアを実践している。本人の思いを汲み取り、職員、利用者様、利用者同士が、支えながら生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月日誌を送り日常生活を報告。家族の訪問時には日々の様子をお話し本人の思いを伝えている。行事やお誕生日会にも参加して頂き、交流の機会を設け、より良い関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室、床屋、御家族様との外出、外泊等の希望を汲み取り交流の時間を確保できるよう努めている。	知人、友人などが来訪した時は、ゆつくりと会話ができる環境やサービスを提供している。馴染みの人が多く集まる道内最大規模の「らんフェスタ赤平」を見学したり、馴染みの床屋、美容室、家族との外泊など、また、年数回の法話を開催して馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様との共同生活を送る中で、利用者様同士はもちろん、職員も中に入り助け合いながら生活を送って頂くと共に利用者様同士の関係性を把握し職員が調整役となり趣味などを通して隣のユニットとも交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は情報を提供し環境変化の不安を最小限になるよう配慮している。また、退去後も面会などを継続し、敬老会の記念品を届け関係を断ち切らないよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に御家族様や知人から生活歴を伺っている。また日常生活から情報を得て意向に沿うよう心がける。「本人らしい生活は？」など疑問を持つよう意識し本人と共に考えていくよう取り組んでいる。	日々の会話、仕草、表情などから気がついた事は介護記録、申し送り帳に記録するように努めている。困難な時は職員同士やスタッフ会議で確認して共有するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問で生活歴や生活状況を聞き取り、御家族様やケアマネから情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を尊重しながら行動を共にし変化を知るようにしている。申し送りや、記録、連絡ノートを活用し、状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族様の要望等を聞き取り、ケアカンファレンスなどで話し合い計画作成し、見直している。毎日の朝と夕方のミーティングで職員同士情報を共有し、月に一回みんなで確認している。	利用者、家族の意向を反映させ、介護記録、職員の情報、主治医の意見を聞いて短期6ヶ月、長期12ヶ月で見直しを行って介護計画を作成し、家族に説明を行い同意印を得ている。朝、夕のミーティングで介護計画を発表し職員全員で共有している。状況に変化があれば、その都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や申し送り帳を活用し情報の共有を図っている。毎日の申し送り時にも個々の変化や情報を伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携が取れており緊急時の対応など迅速に行えるようになっている。また、御家族様の来訪時の食事や宿泊など要望に応じている。その他、状況に合わせた対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近郊の小学校の招待を受け、運動会や学習発表会の見学、運営推進会議の委員さんとの避難訓練の実施、ボランティアなどの慰問がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族様が希望する病院へ受診している。受診の際は必ず職員が同行し状況を把握、結果は受診ファイルに記載している。毎月の手紙で御家族様に報告し場合によっては電話連絡もしている。	市内、滝川、砂川など利用者、家族が希望する病院で受診している。利用者の健康状態は事業所内の看護師が管理している。2つの病院と連携しており私立病院とは24時間外来対応としている。インフルエンザ予防は当事業所で接種している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活状況の報告や異変の際は早期発見し看護職員に相談している。受診の必要性を判断し、主治医と連携を図り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は利用者様のADL等を記した「情報提供書」を提供している。また、入院中はこまめに面会をし、状態把握に努めている。御家族様と医師からの説明を定期的を受け、今後の治療方針や早期退院に向けての話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	話し合いの場を設け、不安や疑問等はできるだけ除けるようにしている。また契約の際には今後の方向性についての相談などしている。終末期については医師や御家族様との話し合いの場を設けている。	入所時に利用者、家族に「重度化した場合における対応に関する指針」に基づき説明し同意印を得ている。現在看取りの実績はなく、利用者に状況の変化が有るときは主治医の判断に基づき、家族の希望に添えるよう当事業所で出来る範囲で利用者、家族と話し合うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域で行っている救命講習の日時を職員に知らせ、参加できるよう計画している。今後、消防署と調整し救命講習を行う。緊急マニュアルは身近に置き、確認対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の協力を頂き、避難訓練を実施している。そのうち一回は夜間帯を想定した総合訓練を実施している。火災の他、地震を想定した訓練も実施している。地域との協力体制は運営推進会議にて話し合っている。	消防署の協力を得て、年2回火災と地震の避難訓練を行っている。2回とも地域住民が参加し、訓練終了後消防職員から結果の評価を受け運営推進会議で報告している。備蓄品として飲料水、カンパンや缶詰など3日分以上を確保している。	一時避難場所、避難所などで商工会から近隣(歩いて数分)に会館があるので利用してはとの提案があり、行政など関係機関と協議し検討することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人を尊重し尊厳の意を持った態度や声かけをすよう心掛けている。職員同士でも言葉使いを注意し合い、誇りやプライバシーを損ねないよう気を付けている。	研修会では「個人情報管理基本規定」に基づき「言葉使い」の注意点を共有することに努めている。写真掲載、氏名などのプライバシーの保護は「個人情報に関する同意書」を利用者、家族に説明し同意印を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけた問いかけはせず、選択できるような声かけを心掛けている。決定が難しい方は普段の会話や行動などから思いがよみとれるよう気を付けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を送って頂くようにしている。外出等は本人の意向に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理美容室に行くようにしている。日頃から身だしなみには気を付け、行事等の時には化粧をしたり好きな服を選んで頂けるよう心がけている		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好品を把握し利用者様と協力し合い調理や片付けをしている。提供する際は盛り付けなどにも工夫し彩りや見た目にも気を付けている。	利用者は能力に応じ、調理や片付けの参加を日課としている。旬の食材を使用した2週間分のメニューで食事を提供しているが、外食等の要望も取入れている。誕生日、行事食などについては事前に好みを聞き、要望に沿うよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事量や、水分量の把握と状態や体調に合わせた料理の工夫をしたり、糖尿病の方にはカロリー計算をし提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は声かけし見守りにて口腔ケアをしており、磨き残しがないかその都度確認している。自分でできない利用者様には介助にてケアし、常に状態観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用して排泄パターンを把握し、声掛けや誘導する事で失敗やおムツなどの使用が減るように支援している。声掛けや介助の際には、不快の無いような支援を心かけている。	排泄パターンを把握し、目立たない様且つさり気なく自立排泄できるよう支援している。リハビリパンツやパット、オムツは利用者の状況に合わせて対応している。夜間は3時間おきに巡回しており、排泄があった場合は鈴音の合図で確認し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムの把握をするため、チェック表を活用し声かけにて誘導を行い少しでも失禁を減らせるように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決めず本人の好きな時間に入れるよう常にお湯を張っている。毎日入る方や馴染みの方同士一緒に入る事もあり、快適な入浴支援を行っている。拒否の強い利用者様には時々状態に応じ身体清拭や足浴など行っている。	入浴は同姓介助と週2回以上を基本としているが回数、時間は利用者の希望に沿って対応している。利用者の状況によっては複数介助やリフト浴を行っている。また、湯船のお湯はかけ流し状態で清潔さを保つよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間の決まりは無く、本人の生活習慣に合わせた対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬を理解し、変更があった場合には必ず全職員に伝達し、副作用や用法、容量の把握、理解に努めている。症状の変化には敏感に気づけるようにし、変化が見られた場合には受診時に医師に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事や掃除など個々にあった役割が発揮出来るように努めている。また外食や行事等、散歩に出かけ楽しんで頂けるように支援している。		

グループホームのぞみの家 カエデ館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買い物などの支援が出来るよう努めている。また、敷地内周辺環境整備も行い楽しみながら散歩できるよう工夫したり、交流をはかれるよう心がけ充実した生活が送れるよう支援している。	日常的に庭や農園、他の事業所へ自由に散歩をしている。また、花見や紅葉、夏祭り、学校との交流、観光名所にドライブ、一泊旅行、敬老会、日帰り温泉、外食とイベント等々、数多く楽しみの場を設けて利用者の体調にあわせて支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様には小額を所持して頂き、買い物等の希望者には職員が付き添っている。地域イベントの際にもそれぞれ所持金から好きな物を購入している。財布の残金額については必ず利用者様と一緒に確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話を設置し、いつでも自由に使用出来るようにしている。クリスマス時期には、クリスマスカード作りの支援をし御家族様へ送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度に気を付け不快な思いをしないよう心掛けている。また、季節感のある飾りをしたり、お茶やコーヒー等いつでも気軽に飲めるよう配慮している。利用者様は和室や食卓など、思い思いの場所で過ごしている。またキッチン是对面式となっており日頃から生活を意識して頂けるよう工夫している。	居間や食堂の壁には生活感のある落ち着いた写真や飾り付けをしている。食堂の椅子やテーブルは余裕を持って配置している。また、居間は洋間の他に使い勝手が良い畳の和室があり、法話会場など多目的に使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、喫煙所を設け、ストレスが溜まらないよう自由に過ごせるよう配慮している。ソファの配置にも気を配り個々の思いを大切に尊重している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、タンスは備え付けだが、希望に応じて自宅から持ち込んだ物を使用している方もいる。その他、食器類や写真など、馴染みのある物を持ってきて頂き、安心して生活出来るようにしている。	照明やカーテン、暖房が備えられ、広さは8畳ほどで、テレビや仏壇、家族の写真など馴染みの物を持ち込んで居心地の良い安心できる居室になっている。広い室内は来訪者が個室でゆっくりと過ごす事ができる。室内は掃除が行き届いており清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かるように表札やのれんを付け認識しやすいようにしている。また花や野菜など育て水やりや草取りなど出来ることを行って頂けるよう心掛けている。		